

2021/11/6

(オマケの英語教室 allowance) 書き直し版 書庫版



お手軽、簡単、便利、全盛の時代。

ところが

「簡単すぎてつままない」

とか

「便利すぎてつままない」

という感覚が芽生え始めたのではないか？と思える記事がありました。

CD店で売上上位にアナログレコード盤がランクインしたという記事。

針を使い盤も凸凹しているので掃除や保管、即ちメンテナンスが面倒臭いレコード盤に加え、マルチソースにも拘わらず其れ等のソフトを持ち歩かなくて済み、又ハードも手の平サイズな「お手軽、簡単、便利の極地」とも言えるダウンロードやストリーミングツールに比べ、遙かに重量物であり且つワンソースでしかない割に値の張るレコードプレーヤーの方の売上も上々だとか。

勿論ダウンロードやストリーミングに押され CD店そのものの数が減っており、その中で上位の「一角に」アナログレコードが入ったからと言って世の中の大勢が変わった訳ではない事は存じております。売上高構成比で見れば未だほんの微々たるものでしょう。

又、今起きている出来事は「音楽愛好家世界」全体の出来事と言うより、極めて限られた「音（再現）マニア世界」での出来事で、世の中全体の潮流とは無関係だという見方もあるでしょう。

しかし、そういった誇大解釈を諷める論を知つつ、この様な動きが僅かながらも出てきたと言う事実は、個人的には注目に値する気がするのです。

多分今の人達の一部は、確かに目的地には一番早く着ける様に思われる「効率尽くめで無駄のない」今の生活、その癖実態は「授業ぶっ通しで休み時間なし、帰りは直帰で寄り道なし」の今の世界にうんざりし始め「敢えて一寸無駄をしてみたい、一寸不便を感じてみたい、一寸損得を外れてみたい」気分が何処かに湧いてきたのではなかろうかなという見立てからで御座います。

この「いい意味での無駄」を日本語では「あそび」と言います。この「あそび」を英語にすると、訳は allowance。

木工等で「かっちりはめ込むのではなく力を逃がす為に少し隙間を空ける」その隙間を「あそび」と言いますが、此処で言う「あそび」は「あそび」というと我々が直ぐに思い浮かべる play (遊戯) ではなく allowance (力逃し)

Play という語が与えがちな「わいわい騒ぐ(festival)イメージ」ではなく「かわす」「いなす」が語として妥当な「すり抜けぬらりひょん(flexible)」なイメージ。

そして、この allowance の動詞形が allow で「許す」です。

なので、allowance を正確に訳すと「力逃しの為に許されたあそびスペース」となります。効率一点張りの中で「損をすまい、逃すまい、と緊張しきった力(りき)みを逃すためにちょっと無駄をしてみる」「敢えて手間暇を掛けたり、寄り道をしたりしてみる」生活。

Allowance might be bringing such a little bit loosen new lifestyle, for you.

(あそびがそんな、ちょっとルーズな新しいライフスタイルをもたらす事になるかもしれませんが、あなたに)

そんなメッセージがレコードとレコードプレーヤーの売り上げ伸張には隠されて居る様な気がしております。